社会福祉法人 函館厚生院 **函館中央病院** 広報誌

第217号
R8年10月
発行

電車どおり





今月の表紙
写真展
みんなとくべつなひとり

ホームページはこちら

もくじ

1. こども秋まつりを開催しました ・・・ 2p

2. 11月14日（土）
世界糖尿病デー　ブルーライトアップ実施 ・・・ 2p

3. ロボット支援下手術特集④
～ロボット支援下手術の安全性・有用性～ ・・・ 3p

4. 大切なお子さんのケガを予防する ・・・ 4p

11月3日は「文化の日」です。読書や音楽、芸術など、身近な文化に触れるよい機会です。寒さが増してくる季節ですが、ゆっくり本を読んだり、好きな音楽を聴いたりして、心温まる時間を楽しんでみてはいかがでしょうか。



基本方針

- 道南の基幹病院として急性期医療に取り組みます。
- 断らない救急医療を実践し、住民の信頼と期待に応えます。
- 総合周産期母子医療センター及び北海道がん診療連携指定病院として高度で専門的な医療を提供します。
- 「患者さまの権利」を尊重し、安心で安全なチーム医療を実践します。
- 医療環境の発展と充実のため、地域の行政・医療機関との連携を強化します。
- ワークライフバランスに配慮した職場環境づくりと人材育成に力を入れます。

【患者さまの権利】
- 安全で良質な医療を平等に受ける権利
- 自らが受けている医療について、十分な説明を受け、知る権利
- セカンドオピニオンを求める権利
- 自らが受ける医療に参加し自己決定する権利
- 個人のプライバシーが守られる権利
- 個人として常にその人格、価値観が尊重される権利

【患者さまの義務】
- 自らの健康状態を医療者にできるだけ正確に知らせる義務
- 医療者の説明や自らの疾病状態の理解に努める義務
- 病院の規則や医療者の指示に従い、医療に参加・協力する義務
- 他の患者さまの治療や医療者の業務に支障をきたさない義務
- 受けた診療に対し、医療費を支払う義務

総合周産期母子医療センター、北海道がん診療連携指定病院、小児がん連携病院（類型3）、北海道小児地域医療センター、
日本医療機能評価機構認定施設、卒後臨床研修評価機構 認定病院

1. こども秋まつりを開催しました

10/19(月) ～ 10/24(土)の間、1階 こども子育て支援室にて、

こども秋まつり

を開催しました。お子さん向けにくじ引きを用意し、最終日にはヨーヨーつり・スーパーボールすくいなど、縁日コーナーも設置しました。期間中は数多くのお子さんにお越しいただきました。

また、11/13(金)まで、1階にて「みんなとくべつなひとり写真展」も開催しております。
「医療的ケアを必要とする子どもたちが、身近に暮らしていることを知ってほしい」
との思いからはじまった写真展です。
少しだけ足を止めて、一人ひとりの暮らしや思いに触れてみませんか。





2. 11月14日（土） 世界糖尿病デー ブルーライトアップ実施

11月14日は、インスリンを発見したカナダのバンティング博士の誕生日であり、
「世界糖尿病デー」として定められています。

当日の日没～21:00には、当院をブルー(糖尿病啓発のイメージカラー)にライトアップいたします(5年連続5回目)。

さらに今年は、金森商船㈱さん、NCV函館センターさんにご協力いただき、

- 金森赤レンガ倉庫BAYはこだて
- NCV函館センター

もブルーにライトアップいたします。
どうぞお楽しみに。

※荒天時は中止する場合がございます。



また、世界糖尿病デーにあわせて、当院では

『はこだて糖尿病デー』

と称し、講演会とイベントを主催しております。



3. ロボット支援下手術特集④ ～ロボット支援下手術の安全性・有用性～

本邦におけるロボット支援下手術の安全性を最初に示したものは、胃癌手術における先進医療で、厚生労働省承認の下、藤田医科大学主導で行われた多施設共同前向き単群臨床試験です。

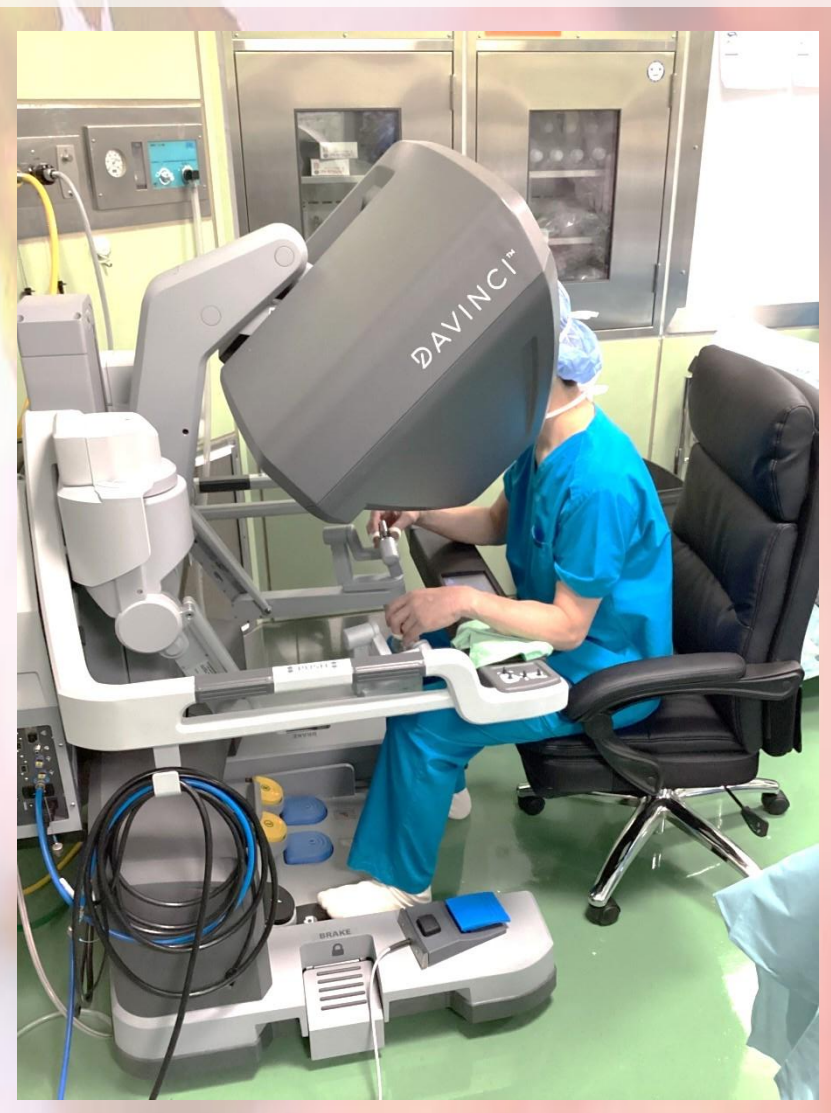
胃癌手術後合併症として主な膵液漏、縫合不全、腹腔内感染症などの全合併症発症率は、従来の腹腔鏡手術（6.4%）に比較し、ロボット手術では 2.45%と軽減され、この成績をもって12のロボット術式が保険収載されました。

その後、胃癌領域では日本の全国データ（National Clinical Database: NCD）への前向き登録が初期から実施され、短期成績においては在院日数が有意に短縮し、腹腔鏡手術と遜色なく全国に安全に導入できたこと、長期成績においては、全生存率が腹腔鏡手術よりもさらに有意に向上していることが示されました。

直腸癌に対するロボット支援下手術では、2017年の ROLARR 試験という最初の大規模ランダム化比較試験がありますが、主要評価項目の開腹移行率で腹腔鏡手術（12.2%）とロボット手術（8.1%）に統計学的有意差がなく優越性は証明されませんでした。

ただし、男性、低位前方切除などの困難症例においてはロボット支援下手術の開腹移行率が低いことが示されました。本邦では2021年に NCD のデータから、開腹移行率に加え在院日数、在院死亡率などもロボット支援下手術群で有意に低いことが証明され、ロボット支援下手術の有用性が示されたものと考えられます。





4. 大切なお子さんのケガを予防する



リハビリテーション科
理学療法士(副技士長)
千田　伸一

大切なお子さんの部活動やスポーツ現場においてケガはつきものです。お子さんだけでなく、保護者の皆様としても大きな悩みです。

成長期では、バスケットボールやバレーボールで多いオスグット・シュラッター病（ひざの痛み）、サッカーやダンスで多いシーバー病（かかとの痛み）、野球や陸上で多い腰椎分離症（こしの痛み）や野球肘（肘の痛み）などが多いです。

また、特定の動作を繰り返すことによって起こるケガもあります。例えば、投球動作の繰り返しにより、肩の筋肉や周辺に負担がかかり痛みが生じる「野球肩」、手や腕への繰り返される負担によって肘に痛みが生じる「テニス肘」、ジャンプや着地動作を頻繁に行うことで膝に痛みが生じる「ジャンパー膝」、ランニングやジャンプでアキレス腱に負担がかかり、痛みや腫れを引き起こす「アキレス腱炎」等があります。

以上のように、過度の負担がかかり続けることによって、特定の部位に疲労が蓄積し、慢性的な痛みが引き起こされるケガを「スポーツ障害」といいます。

スポーツ障害の原因として、無理な練習や急な運動量の増加が挙げられます。
しかし、これだけではありません。各スポーツ動作における誤ったカラダの動かし方（フォームの乱れ）やいわゆるカラダが硬い（柔軟性の低下）ことが原因であることも多いです。
ケガによって、大好きなスポーツや競技の時間、大切な仲間との時間が阻害されていることは少なくありません。そうならないためにも、「予防」が大切になります。

そこで、医学的な視点を持ったリハビリテーションの専門家である理学療法士はケガの予防のために安全かつ効果的、効率的に相談・指導を行っています。
柔軟性や筋力のチェック、さらには姿勢やフォームの分析をし、お子さんに合ったオリジナルのプログラムを作成しています。

ケガでお悩みの方は、まずは医療機関にご相談ください。
大切なお子さんのケガを減らしていきましょう。

※今月号の背景：紅葉(ロイヤリティフリー pixabayより)

偶数月最終週発行　発行責任者:金山 雅弘　函館中央病院(住所：函館市本町33番2号　℡：0138-52-1231)